

# 児童生徒の表現力を育成し、深い学びに繋げていく指導のあり方

～極小規模校における対話的な活動を通して～

十島村立平島小・中学校

## 1 研究のねらい

本校では、極小規模校という利点を生かして、児童生徒の一人一人の実態に合わせたきめ細やかな指導や支援を行っている。今年度は、小学1年生と4年生は児童1名の学級であり、小学5・6年生と中学2・3年生は複式学級となっている。どの学年も少人数学級であるため、児童生徒同士で多様な意見交換をしながら学び合う学習活動を行う機会は少ないが、教師との対話的な学習活動や各個人に合わせた課題等を通して学びを深め、思考力の充実がみられる。しかし、一方で発表する機会が少ないことや人前で話すことに苦手意識があることから表現力について課題が残っている。そこで今年度は、教師との対話的な学習活動の中でも児童生徒の考えや思いを引き出す発問を積極的に行ったり、月に一度「心の花」という時間で日頃感謝していることや人のいいところを発表する時間を設定したりし、より一層の表現力の育成を図ることとした。

## 2 研究の概要

本研究は、極小規模校という本校の実態を生かし、対話を大切にした授業の展開を図るための工夫や児童生徒同士の交流の場の設定の工夫等、表現力の育成のための指導や支援の在り方を実践を通して検証したものである。

## 3 研究の内容

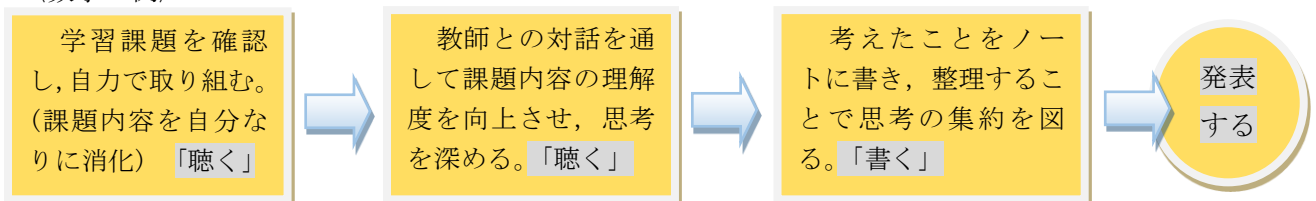
- (1) 表現力を養うために書く、聴く、発表する時間を明確に設定した。
- (2) 極小規模校の実態を生かし、一人一人との対話を充実させることで学びを深めさせた。
- (3) 他校の児童生徒との交流を行うため、TV会議システム活用の推進を図った。
- (4) よさを認め合う活動として「心の花」の時間を設定した。

## 4 研究の実際

- (1) 書く、聴く、発表する時間の設定

まず表現力を養うために表現するための言語力や様々な考え方を持つことが大切である。そのためには、相手の意見や考えをしっかりと聴いて受け入れ、自分なりに消化し、自分の中で考えを広げていかなければならない。自分の考えを整理するという面では、書くことが有効な手段である。文字で表すことで視覚化し、整理しながら考えを深めることができるからである。そこで本校は一単位時間の中に「聴く」、「書く」時間をしっかりと位置付け学習活動を展開している。

〈数学の例〉



- (2) 児童生徒との対話的な活動

小学5・6年生の複式授業では、ペア活動やグループ活動を行うことができるが、小学1年生や

4年生，中学2・3年生では児童生徒が1人または2人といった少人数学級であるため，ペア活動でさえ難しい現状がある。友達と話し合っただけで考えを深めたり，意見を交流させたりする機会がないため，教師側からさまざまな揺さぶりを積極的に行い，常に児童生徒との言葉のキャッチボールで進めながら，自分の考えを根拠をもとに自信を持って発表できるように指導している。

### (3) TV会議システムの活用

日頃ペア活動やグループ活動を行えない児童生徒にとって，合同授業で同じ年の友達と話し合える機会はとても有意義な時間となっている。各学年ごとに他校の先生と打合せを行い，様々な教科で合同授業を行っている。



また，毎週水曜日には小学生の外国語活動や中学生の英会話教室を行っている。教科化され，今後さらに重要になる外国語（英語）にも十島村全体で力を入れており，ALTの活用も充実している。十島村では今年度から5校にALTが島に在住し，日々交流の機会を設定することができる。平島にも来年度ALTが在住する予定だ。ALTとの交流を通して，外国人の感性にふれることで児童生徒の感性が刺激され，表現力の育成に繋がることが期待できる。

### (4) 認め合い，感謝を伝える時間「心の花」

本校は今年度から毎月土曜授業の日に「心の花」の時間を設定している。この時間では，日頃感謝していることを発表したり，他人の頑張っていることを褒めたりする時間となっている。そういった言葉を口に出すことで相手に言葉で伝えることやお互いに良さを伝え

合うことの大切さを学び，良好な関係を築いていくことができる。また，自分が気づけていない他の人の良いところや自分自身の良いところ知る機会でもあるため，新たな自分を見つける時間にもなっている。



一人一人の心の花びらが大きな花を咲かせてきました。

少し緊張したけど，発表できました。

## 5 研究のまとめ

### (1) 成果

TV会議システムを活用した合同授業や「心の花」の時間を通して，児童生徒の表現力を高めることができた。また，表現力だけでなく，日頃関わらない人との交流や他人の良いところをお互いに認め合う機会を通して，考え方の幅が広がり，自分を見つめ直すこともできた。

### (2) 課題

全体として，表現力の向上は見られたが，まだ特定の児童生徒には自分の考えや思いを表現することが難しいため，継続して支援を行っていく。また 児童生徒同士の仲が良い反面，相手を思いやった言動に欠ける部分も見られるため，相手のことを考えた言動を意識させる必要がある。

## 6 今後の取組

今年度，「表現力」をテーマに研究に取り組み，一定の成果をあげることができた。しかし，まだ特定の児童生徒には難しい部分もあり，相手を思いやりながら，自分の気持ちや考えを伝えることを継続して育成していかなければならない。「心の花」では相手を思いやり，自分を大切にすることを見つめ直すことができる機会である。今後も継続して行い，児童生徒の変容を見守っていきたい。